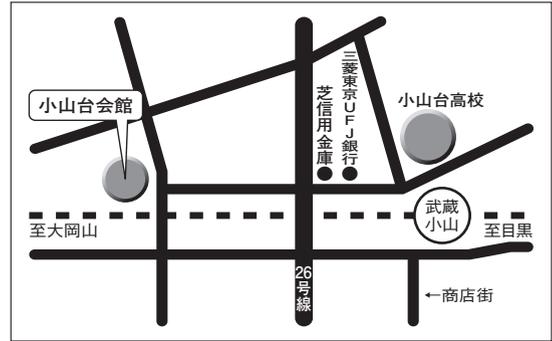


第32号

2008年9月25日 発行

発行所 財団法人小山台
〒142-0062 東京都品川区小山4-11-12
TEL 03(5721)6171 FAX 03(5721)6173
発行人 理事長 大澤佳雄
編集人 常勤理事 杉山 元

財団法人小山台
会報

駅が地下になり、急行も停車します。

公益法人制度改革 3 法施行にあたり

1. はじめに

本年12月1日より、約100年ぶりに公益法人に関する法律が抜本的に改正され施行されることになった。これまで公益法人として認定されていた財団法人は5年以内に、新法のもとでの公益法人の認定を受けるか、または一般法人の認可を受けないと、法人格を失い解散することになる。財団存続に関する環境が大変革の嵐にさらされていると言わねばならない。

2. 当財団への影響

当財団もこの改革に備え準備委員会を立ち上げて検討してきたが、公益法人の認定を受けるためには、公益法人としての目的、事業内容、組織等々大幅な改定が必要となり、現在の寄附行為も定款と名を改め、改定することになる。

また、同時に事業内容そのものも新公益法人認定法2条に示されている公益目的事業に適用することが要請されているので、当財団がこれまで行ってきた事業はすべて公益事業であ

ると確信しているものの、定款上の表現等は工夫する必要がある。さらに、同法には、「事業は不特定多数の者の利益の増進に寄与するものでなければならない」という条文があり、特定の高校を支援することがこれに該当するかどうか大きな問題となる。この判断は内閣府におかれた「公益認定等委員会」の審査によるもので、認定申請した結果がどうなるかは、ガイドラインが公表されてはいるものの、認定結果が具体的に公表されるまでは分からないというのが現状である。

なお、公益認定を受けないと、現行のような税制上の優遇措置は受けられなくなり、その結果利息収入に対し20%の源泉所得税がかかるので、年間収入の20%が失われることにより、事業内容も大幅に縮減せざるを得なくなる。

3. 組織

組織の面でも、新法により大きく改定される。まず評議員であるが、現行の評議員は寄附行為で定められた役職であり法定の機関で

はなかった。しかし今後は法律で定められた機関としての存在となる。最大の権限は理事の選出であり、理事会の監督である。これまでも評議員会で理事を選出してきたが、評議員もまた理事会により選出されていたのでお互いの権限は同等であった。しかし新法では、理事会は評議員を選出することを禁じられるなど、組織のガバナンス上の位置付けが明確になったため評議員会の権限が極めて強化されると同時に、評議員は公益代表という色合いを強くするため、評議員を選出するための機関として公益代表を含む評議員選定委員会(理事は参加できない)を設置しなければならないようになった。

このような状況下において、当財団は来年6月の評議員、理事の改選期を迎える。準備委員会としては、この問題に関する情報をできる限り提供していく所存であるが、皆様も今後の動向を注視し、また更なるご理解ご支援をいただきたいと考えている。

準備委員 杉山 元 (記)

19年度「寺子屋小山台」報告

活動の概略

07年5月に第二期生募集を始めた「寺子屋小山台」は、延べ8回の講座を開講し今春終了しました。プレ講座で「自分が源泉」と自らの変革が周囲に大きな影響を及ぼす、という共通認識を受講生全員が共有することから寺子屋小山台は始まりました。次に、福川塾長が「受講生に期待する事」を整理し、その後、多彩な講師をお迎えした寺子屋小山台が開催されたのです。

各講座は、前半を講話、後半は講師を交えた討議、という形式で進行しました。討議では、募集案内に記載されている「各界を代表するリーダーを円卓形式で囲み、政治、経済から人間・自然まで森羅万象を素材に議論を深めます。トラディショナルリーダーから直接の薫陶を得ながら、同世代の仲間と切磋琢磨する」そのものが、毎回繰り広げられました。

受講生のご紹介

07年度受講生は14名。菊桜会・偲桜会外から4名のメンバーを迎えました。企業経営者・勤務者、地方議会議員、国家公務員、フリーライターなど業種も経験もさまざまな方々です。多様なメンバーからのさまざまな指摘を得て、大きな成果につながりました。



また、講師と受講生の関係を取り計らう世話役も講座に参加しました。世話役から、講師の方々から事前検討項目を示していただくよう依頼し、受講生がさまざまに考えた上で講座に参加するようにしました。例えば、「日中関係で自分が興味を持っている

3項目を挙げよ」は、朱先生からいただいたテーマでした。

こうして、課題事前検討を重ね、討議に参加。そして振り返りをまとめて講師に提出。この積み重ねで受講生は「天下に冠たるニューリーダー」として成長をとげていきました。

受講生からのメッセージ

08年3月には福川塾長を交え、半年間を振り返り、今後の取り組みを披露する機会を持ちました。各人の発表の中からいくつかをご紹介します。

Aさん

眠っていた気持ちを目覚めさせることができた。この講座を通して、ある事象には正があれば負もあり、光があれば陰があることがわかった。また、大局的見地に立つことの大切さを認識した。充実した半年間であり、これで終わってしまうことが残念。同じ気持ちを持つ人が増えることで世の中はもっとよくなる、と感じた

Bさん

印象に残った言葉 朱建榮氏「未来志向の関係を目指す」
福川氏をはじめとする多くの方々から「歴史は未来を語る上で、事実確認のプロセスとして重要」一方、技術革新が歴史を転換させ、技術革新は世界を広くすると同時に狭くもした。現在は歴史の上に成り立っており、歴史の延長線上に現在はある。企業人として昔のものをすべて捨てるのではなく、歴史との共生を考えなければならない。無料で貴重な講話を聴く機会を得たことを感謝。

Cさん

リーダーは人望もあるが実行力のある人であり「まかせる、認める、ほめる」ことを通じて組織強化を実現できる。21世紀は世界が連帯していく時代だ。特に自然との連帯が大切、と考える。自分は小山台高校卒業生ではないが、懐の深い人たちに囲まれ充実した時間をもった。

Dさん

仲間ができたことがうれしい。続けることは、山に登るようなもので、山に登れば見える景色もある、と考える。

小山台高校の可能性について何十年ぶりに気づいた。自分の原点は小山台高校だ。同期会では気づかなかったが、寺子屋ではじめて気づいた。

最後に

第二期生は、寺子屋の門下生という意味から「筆子の会」を結成し、受講生交互が講師となる自主活動を始めました。また、講座の中から得た事柄を実務に反映する取り組みも始まっているようです。一期生も含め、小山台の地から「天下に冠たるニューリーダー」を輩出することを確信しております。なお、第三期生は08年7月には確定し8月末から講座を開講するべく準備を整えています。

世話人：中村 修 (記)

20年度日程

開講期間 2008年8月～2009年2月

(講座予定は下記の通り)

日 程	テ ー マ	講 師
プレ講座 (8/31)	「受講生に望むもの」 「自分が源泉というあり方」	福川 伸次氏 鈴木 博氏
第一回(9/13)	「リーダーシップ論」	小島 章伸氏
第二回(10/5)	「米国大統領選と世界」	高成田 亨氏
第三回(11/1)	「国際貢献」	藤田 公郎氏
第四回(12/7)	「環境論」	福川 伸次氏
第五回(1/10)	「中国から見た日本」	朱 建榮氏
第六回(1/31)	「経済トピックス」	大澤 佳雄氏
第七回(2/28)	「まとめ」	受講生全員

※テーマ、講師については変更の可能性あり

20年度 英国との交換交流事業

2008年7月31日～8月20日

論壇 環境、資源、食糧

理事長 大澤 佳雄



ひさびさにサミットとその拡大会議が開かれ環境と資源価格問題が討議されたが、足下の世界的な金融不安問題が緊急の課題であったため、残念ながらはかばかしい成果は得られなかった。わが国にとってはいずれの問題も早晚死活問題になってくるものと見通されるが、ソフト（知的）な「外交力」を駆使して問題解決の糸口を見つけないと見通される。

軍事力などハード・パワーによって「世直し」を謀ることが全く意味をなさないことは、この40年間の米国の挫折が証明するところであり、対立する西欧先進国と現在の中国、インドなど高成長国の間では、双方の事情を理解できる日本が世界の利害調整していく使命を佩びている。

バブル経済の崩壊以来すっかり自信を失ってきた日本人であるが、英国の国営放送BBCの世論調査で日本はカナダと並んで今年も「世界に好影響を与えている国」のトップにランクされている。エコノミック・アニマルと批判された我われからすると、どうしてだと思いが、「あれほどの経済力がある日本にハード・パワー指向がない」ことが好印象の主因があると考えられる。「悪くなくやつぱ、いいやつだ」という消極的なことでなく、その好印象が持続している今こそ、ソフト・パワーを以って積極的に道筋の見えない世界の大問題に取り組んでいく必要がある。いま一線で活躍する現役世代、さらに次世代に課せられた課題は大きい。

問題の大きさからすれば、まさに貧者の一灯に過ぎないことではあるが、影響力のある地球人としての日本人を育てるために「財団 小山台」は何が出来るのか、さらに議論を進めて行きたい。

英国ブリッドポート・ユースセンターと財団法人小山台との相互交流は今年で来日5回10年目となる。もうひとつの相互交流先のミドルズブロウ市教育局は来日3回6年目。昨年英国へ派遣された学生が家庭がホームステイでお世話になった英家庭の学生を翌年受入るもので、引率者を含めて計13名を受入れた。

財団主催（ウエルカムパーティーは受入家庭主催）の公式行事の概要を報告する。その他の日はファミリーデーで、受入家庭あるいは受入学生のプランに従って過した。

*** 7月31日**
成田着、財団で昼食、オリエンテーション後各ホームに案内した。

*** 8月1日**
ウエルカムパーティー 受入家庭主催。大澤理事長、矢作校長他多数参加。今回はブリッドポートの所長アーサーさんが最初の1週間のみチームに同行して来日。パーティーの席上同氏より同所と小山台との交流開始10周年の記念品が寄贈された。

*** 8月3日～4日**
町田市大地沢青少年センターへ1泊旅行を行い、日英学生がハイキングなど野外活動を楽しんだ。

*** 8月5日**
小山台デー 小山台高校生徒との交流。剣道や茶道の班活動体験、日本語教室、クイズやゲームなど小山台生との交流を行った。生徒会及び一般の奉仕活動の生徒を含め年々参加生徒が増えている。

*** 8月6日～9日**
関西旅行 品川駅6時半集合。
京都 金閣寺、龍安寺、清水寺を見学、奈良にて夕食後燈花会を見学。
奈良 「奈良友の会」の案内で東大寺、法隆寺を見学。夕方京都に戻り八ッ橋手焼き体験。
宮島 厳島神社を見学。
広島 平和記念資料館、原爆ドーム見学後帰京した。



清水寺

*** 8月13日**
BRANCH デー 午前中は小山台高校家庭科室で手作りの「うどん」で昼食。午後は財団のホールでゲームなど。

*** 8月18日**
評価会・さよならパーティー 各チーム代表のスピーチのあと日英学生や小山台高校生徒会の校歌斉唱や日英学生の催し物など楽しみながら最後は「蛍の光」で別れを惜しんだ。

*** ファミリーデー** 公式行事以外の日はディズニールランド、浅草、テレビ局、水族館やプールなど各自のプランで過した。

*** 8月20日** 帰国 LH715 成田発12:25

*** 8月31日**
受入家庭による評価会・反省会を行い今後の受入の参考にさせていただいた。



ミドルズブロウ



ブリッドポート



ロンドン タワーブリッジ



ベルリン ブランデンブルク門

平成20年度 海外交流事業参加者

英国語学研修派遣団 (26名)

小田 健 志(男)	小山台高校全1A
木村 真 依(女)	〃 全1A
新海 恭 子(女)	〃 全1A
高橋 淑 子(女)	〃 全1B
田中 美 帆(女)	〃 全1B
武部 花 凜(女)	〃 全1C
柳田 詩 織(女)	〃 全1C
稲澤 芳(男)	〃 全1E
藤崎 和 子(女)	〃 全1E
三宅 康 大(男)	〃 全1E
村木 雄太郎(男)	〃 全1E
久保寺 萌 子(女)	〃 全1F
白石 絢 子(女)	〃 全1F

◎印リーダー ○印サブリーダー

渡 辺 史 奈(女)	〃 全1F
尾 崎 望(女)	〃 全1G
高 野 龍 馬(男)	〃 全1G
渡 邊 早穂子(女)	〃 全1G
尾 野 慎太郎(男)	武蔵野美術大1
志 藤 清 華(女)	星薬科大2
戸 澤 花 絵(女)	日本女子大2
望 月 岳(男)	成城大2
横 山 奈 美(女)	立教大2
小 林 太 郎(男)	早稲田大3
○島 崎 綾 太(男)	上智大3
○滝 野 暢 子(女)	国際基督教大3
◎佐 野 絢 実(女)	成城大3

ドイツ交換留学派遣団 (8名)

高木 ゆき(女)	小山台高校全1A
中村 麻衣子(女)	〃 全1D
千村 くらら(女)	〃 全1G
石川 紗 織(女)	日本女子大1

◎印リーダー ○印サブリーダー

中 村 あゆみ(女)	学習院女子大1
石 川 礼以那(女)	大妻女子大3
○鈴 木 雅 英(男)	横浜国大2
◎近 藤 亜沙美(女)	学習院大2

英国ブリッドポート交換留学受入学生・受入家庭 (6名)

(受入学生)	(受入家庭)	
Hussey Olivia	山口 恵 子	(19年度ブリッドポート派遣)
Davies Josh	鳥 生 優 人	〃
Bird Debbie	鮎 沢 美 佳	〃
Pritchard Eleanor	今 田 菜 々	〃
Rowland-Simms Niabh	鈴 木 芽	〃
◎ Hatch Keith	石川 結梨奈	(16年ドイツ派遣)

英国ミドルズブロウ交換留学受入学生・受入家庭 (7名)

(受入学生)	(受入家庭)	
Wintersgill Laura	生 川 智 加	(19年ミドルズブロウ派遣)
James Natalie	岩 澤 百合香	〃
White Lloyd	中 村 たいら	〃
Armitage Benjamin	土 岐 恵	〃
Lodge Sarah	須 藤 真里奈	〃
Williamson Stephanie	沢 松 知 慧	(15年,19年 ミドルズブロウ派遣)
◎ Lodge Claire	〃	〃

20年3月 (19年度) 学生台湾派遣団 (10名)

塩 谷 祐 美	立教大1
長谷川 旭	横浜国大1
窪 田 葉 月	津田塾大2
近 藤 卓 也	明治大2
谷 口 千 秋	明治大2

◎印リーダー ○印サブリーダー

細 貝 歩 美	学習院女子大2
宮 腰 麻 奈	青山学院大2
山 田 純 平	明治学院大2
○花 坂 未 来	東京学芸大2
◎増 田 葉 奈	國學院大2

大地沢 野外活動旅行について

沢松 知慧

受け入れ行事の一つとして今回初めての大地沢青少年センター1泊の野外活動旅行が行われた。一昨年の反省を踏まえ、大地沢旅行は例年よりも格段に充実したものであった。

第一に、大地沢センターの施設が非常に充実していた。センターは町田市によって管理された施設で、青少年の野外活動の場としての森林整備や屋外調理場はもちろん、アスレチックやハイキングコースも充実していた。

第二に、屋内施設も申し分なかった。屋内施設は空調設備もよく、材料持参で自由に調理場が使える、ダイニングルームもあった。また、大浴場は留学生にとっては少々戸惑いがあったようだが、汗まみれの体の汚れを落とせるというのには感激であった。

第三に、何よりも担当スタッフが大いに活躍していた。BRANCHの会の幹事を筆頭に約15名から

なる精鋭隊が私たち受け入れ学生と留学生達を至れり尽くせりで世話してくれていた。下見の段階からミーティング、準備、必要品の調達、ゲーム・アトラクションの企画、キャンプファイヤー、花火、各食事の調理、バームクーヘン作りまで、大変てきぱきと働いてくれた。彼等・彼女達がいなければ、このプログラムを成功させることが出来なかったであろう。担当スタッフ全員に本当に感謝している。

今年の大地沢で何よりも個性的であったのは、バームクーヘン作りであったと思う。小麦粉・タマゴ・ホットケーキミックス・砂糖を掻き混ぜて出来た生地を竹棒にかけ、回しながら焼く作業をおよそ100回ほど繰り返す。炎天下に火を前にして作業するのは顔が焼けるように暑く、徐々に作業組と休憩組とに分かれていった。およそ2時間かけて作業を繰り返していくうちに、本当にバームクーヘンが完



大地沢青少年センター

成した。自分たちで協力して作ったものが美味しくない訳がなかった。来年もまたこの大地沢が行われるならば、私はプログラムのひとつとして是非ともバームクーヘン作りを推薦したい。

平成19年度事業報告

1. 国際交流事業

①海外派遣・受入

イ. 英国ブリッドポート・ユースセンターとの交換留学

今年は派遣の年で、高校生・大学生6名を3週間ホームステイで派遣した。

ロ. 英国ミドルズブロウ市教育局との交換留学

今年は派遣の年で、高校生・大学生6名を3週間ホームステイで派遣した。

ハ. ドイツベルリン市カニジウス校との交換留学

今年は受入の年で、青少年とリーダー10名及び引率者2名、計12名を3週間受入れた。

ニ. 英国語学研修派遣

高校生・大学生26名を3週間、ボーンマスの語学学校に派遣した。

ホ. 学生台湾交流派遣

台湾環球技術学院との交流で大学生10名を8日間派遣した。

②外郭組織援助

イ. 海外派遣経験者の会

ロ. 受入家庭経験者の会

③海外研修助成

他団体のアジア地域およびアメリカ合衆国への研修派遣に参加を希望する学生に対して、その費用の一部を助成した。

④国際交流他団体助成

イ. (財)国際教育映像協会が小学生・中学生・高校生を対象に行っている「留学生が先生」教育プログラム費用の一部助成した。

ロ. 交換留学提携校、提携団体への寄付

2. 社会教育事業

①公開文化講座の開催

年間8回実施した。

②寺子屋小山台の開催

プレ講座含め8回開催。

3. 学校教育事業

①都立小山台高校への助成

イ. 進路、学力向上関係

ロ. 運動会・合唱コンクール等の行事関係

ハ. 都立小山台高校プラスバンドの都民公開

コンサートの費用助成

ニ. 学校PR関係

ホ. 夏季合宿、班活動関係

ヘ. 講習会、コーチ指導関係

②中学校向け事業への助成

③育英事業

一般奨学金

都立高校38名に年間15万円、合計570万円を給付した。

4. その他

①広報

イ. 会報を年1回9月に発行した。

ロ. 業務・財務に関する情報をホームページで公開している。

②会議室・ホール等施設を開放している。

学生海外研修費用の一部援助制度について

小山台高校を卒業の学生を対象とした学生海外研修費用の一部援助制度があります。これは大学など信用ある団体が主催する研修派遣に参加する場合に、その費用の一部を援助する制度です。

対象となる研修派遣：例えば休み期間に大学が企画する語学研修などに参加する派遣がこれに相当します。(単なる観光旅行、個人的旅行や留学、大学のカリキュラムに組み込まれた研修派遣などは対象外)

応募資格：①小山台高校卒業生で現在大学生、専門学校生

②初回の応募であること(同じ人が2回は不可)

対象派遣国・地域：アジア、米国

援助額：アジア 参加費用の10万円を超える額。

ただし、上限は15万円まで。

米国 参加費用の20万円を超える額。

ただし、上限は25万円または費用総額の50%の

どちらか低い額。

派遣期間：20年度中に実施される派遣。

応募受付：随時(ただし助成額累計が20年度予算額に到達した場合

その時点で応募は打ち切ります)

お問合せ：その他お問合せは財団事務局まで。

平成20年度事業計画

平成20年度の収入は19年度とほぼ横這いの予定。このため予算は全事業を見直した上で重点配分を心掛けた。実施を計画している事業の概要は下記の通りである。

1. 国際交流事業

①海外派遣・受入

イ. ドイツベルリン市カニジウス校との交換留学

今年は派遣の年で、高校生・大学生8名を3週間ホームステイで派遣する。

ロ. 英国ブリッドポート・ユースセンターとの交換留学

今年は受入の年で、青少年5名及び引率者1名計6名を3週間ホームステイで受入れる。

ハ. 英国ミドルズブロウ市教育局との交換留学

今年は受入の年で、青少年6名及び引率者1名計7名を3週間ホームステイで受入れる。

ニ. 英国語学研修派遣

高校生・大学生26名を3週間、ボーンマスの語学学校に派遣する。

ホ. 台湾への派遣

台湾環球技術学院との交流で大学生を10名、8日間派遣する。

②外郭組織援助

事業に協力する組織の育成を図り、事業の中核として当財団に寄与する人材を育成することを目的として、下記の組織に援助する。

イ. 海外派遣経験者の会(BRANCHの会)

ロ. 受入家庭経験者の会(あけぼの会)

③海外研修助成

他団体のアジア地域およびアメリカ合衆国への研修派遣に参加を希望する学生に対して、その費用の一部を助成する。

④国際交流他団体助成

交換交流提携校への寄付

2. 社会教育事業

①公開文化講座の開催

8回実施する。そのテーマは4頁に掲載。

②寺子屋小山台の開催

8回実施する。そのテーマは1頁に掲載。

3. 学校教育事業

①都立小山台高校への助成

イ. 進路、学力向上関係

ロ. 学校PR関係

ハ. 運動会・合唱コンクール等の行事関係

ニ. 夏季合宿、部班活動関係

ホ. 講習会、コーチ指導関係

ヘ. その他

②中学校向け事業への助成

③育英事業

イ. 一般奨学金

都立高校38名に年間15万円、合計570万円を給付する。

ロ. 緊急奨学金

緊急に援助が必要になった生徒に対して、5名の枠内でイ.と同様に給付する。

4. その他

①広報

イ. 会報を年1回9月に発行する。

ロ. 業務・財務に関する情報をホームページで公開している。

②会議室・ホール等施設を開放している。

③その他

飛躍中の小山台を更にパワーアップ

都立小山台高等学校 全日制副校長 小牟礼 和人



全校生徒40名程の小笠原高校から赴任しました。小笠原では、美しい大自然に恵まれた環境の中、通勤時間徒歩10分、何でもスローペースという感じで生徒や先生方と過ごしていました。イルカ、クジラ、ウミガメと戯れているような、のんびりした世界から、伝統ある本校に赴任することに正直言ってとまどいもありました。しかし、始業式当初から、生徒のパワフルさ、先生方の献身的指導、保護者・卒業生・財団などの方々のご支援に驚きと感動の連続でした。すれ違う度にこころはと挨拶する生徒にとっても癒されています。仕事は小笠原の何倍にもなり、忙しくなりましたが、毎日充実しています。本校では、学習・進学だけでなく、行事・班活動など全人教育が脈々と継承されています。合唱コンクールでは、そのハイレベルな合唱力のみならず、クラスの一体感、ひいては学校全体の一体感にも感銘しました。保護者などの来客数も900人を超え、最後は全員で校歌を歌うなど、感動的なフィナーレを飾りました。本年は、男子バレーボール班、水泳班が関東大会にも出場しました。まさに文武両道を目指す本校の面目躍如です。その支えは、生徒、先生方、保護者の方々だけでなく、卒業生の方々や財団の皆様のお力添えにもあります。班活動の入班率もほぼ100%に近く、それは都立高校ではトップクラスです。私は本校の紹介・説明を請われていくつかの中学校などに出席していますが、どこでも中学生やその保護者からの期待をひしひしと感じます。小山台の個別ブースにも多くの人が集まります。「ぜひ小山台に入りたい」と記された事後アンケートにとっても嬉しくなりました。中学生による本校への上級学校訪問者数や学校見学会の見学者数も多くなっています。伝統ある本校の一員にさせていただき、本当に幸せに思います。飛躍中の小山台を更にパワーアップさせるべく精励する所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

英国語学研修派遣に向けて

成城大学3年 佐野 絢実



ネイティブの留学生と交流したり、イギリス人の方からお話を伺ったり、グループごとに様々なことを話し合うなど、今年も事前研修を重ねてきました。今までの研修を通して、メンバーたちのイギリス研修への意識やモチベーションが高まり、少しでも不安が解消されていたらとてもうれしく思います。

さて、私は今回の英国語学研修派遣のテーマを「active & aggressive」としました。同じ環境や機会が与えられたとしても、そこからどれだけチャンスを広げられるかは自分次第だと思うのです。私自身5年前、この語学研修派遣に参加したとき、自分から行動をおこすことの大変さ、そして大切さを身を以て感じました。今回メンバーたちが、activeそしてaggressiveに、とにかくいろいろなことにチャレンジ出来るような環境や雰囲気をつくり、後押しして頂けるようなリーダーでありたいと強く思っています。

以前、メンバーに自己紹介シートで、「派遣に応募した理由は何か?」と尋ねたことがあります。「自分の視野を広げたい」「英語の力を高めたい」と書いてくれた人がほとんどの中、「苦しんでいる時にはお互いに助け合う、ということを学びたい」と書いてくれた人がいました。それを読んだ時に、この研修をそんな風に捉えることが出来るのかと驚き、同時にとても共感しました。何か不安なことや困ったことがあったら、仲間に相談し、一緒に解決策を考えたり、勇気をもらったり…。26人お互いにサポートし合い、activeに楽しく、たくさんを感じて、学んで、アツイ夏にします。リーダーとしての責任を持ち、精一杯頑張りたいと思います。

ドイツ派遣に向けて

学習院大学2年 近藤 亜沙美



各々パートナーが決まって、事前研修や団で集まるたびに、「この間、パートナーとこんな話をした!」だとか「私のパートナーは日本のこんなものが好きなんだって!」というように、団員がとても楽しそうに話しているのを見て、実際に現地へ過ごすのは夏だけですが、もう派遣は始まっているんだな、という気持ちになるのです。

さて、事前研修のなかで、私は改めて気付かされたことがあります。それは、頭で考えすぎない、失敗を恐れない、ということです。研修にサポート役として参加していただいたセバスチャン君が、彼のドイツ語講座の中でコミュニケーションを取る上で重要な心構え、それは「間違いを恐れないこと」「シンプルにすること」だと教えてくれました。

その心構えは、コミュニケーションという面だけではなく、派遣先で生活する上でもとても大切なことだと思います。

物事を深く考え、時間をかけて取り組むことももちろんとても重要ではありますが。しかし、現地ではその場での即決力や行動力が必要になる時もあるでしょう。

一日一日を大切に、その日その日の「今」を充実させて過ごすために、「えい!なんとかなるさ!!」と時に楽観的にとらえて行動していくことも大切なのではないでしょうか。

私自身も、リーダーとして全員が充実した日々を過ごせるよう、何が出来るか考えそして行動し、またメンバーの後押しや支えになれるよう、全力を尽くしていきたいと思っています。そして名残を惜しみつつ、ひとりひとりが充実感に満ちた帰国ができるような3週間にしたいと思っています。

平成20年度 新任役員・委員一覧

役員	理事	小牟礼和人	小山台高校	全 副校長
	理事	宮澤真由美	同上	経営企画室長
	理事	佐藤 健	全	PTA会長
国際交流事業部会	部 会 員	重永 晴枝	定	PTA
	部 会 員	神山 泰一	全	教諭
	部 会 員	大谷あけみ	全	教諭
社会教育事業部会	部 会 員	齋藤 英子	全	PTA
	部 会 員	佐野 文子	全	PTA
学校教育事業部会	部 会 員	小牟礼和人	小山台高校	全 副校長
	部 会 員	松木 丈浩	全	教諭
	部 会 員	島田 博美	全	教諭
	部 会 員	高橋 知子	全	PTA

全：全日制、定：定時制の略

平成20年度 公開文化講座のご案内

平成20年度は公開文化講座を8回計画しました。既の実施済、締切済のものもありますが下記の内⑥～⑧は今後開催予定のものです。詳細は財団にお問い合わせください。

- *実施済、締切済のもの
 - ① **リスク・マネジメント**.....講師 武井 勲氏
 - ② **癒しのヨーガ**.....講師 清水多江子氏
 - ③ **介護者を孤立させない地域づくり**.....講師 牧野 史子氏
 - ④ **歴史散歩(1)羽田境界散歩**.....講師 手島宗太郎氏
 - ⑤ **歴史散歩(2)大森・馬込散歩**.....講師 手島宗太郎氏
- *今後開催予定のもの(場所 小山台会館、14:00から)
 - ⑥ 11月22日[土]**レクチャー・コンサート**.....講師 大塚 修造氏
 - ⑦ 1月24日[土]**こうやればできる!整理・収納II**.....講師 吉村 知恵氏
 - ⑧ 2月21日[土]**新南米事情**.....講師 木村 好作氏

貸借対照表

平成20年3月31日現在 (単位:千円)

【資産の部】		【負債・正味財産の部】	
科目	金額	科目	金額
流動資産合計	37,862	負債合計	6,007
預貯金	37,862	流動負債合計	159
固定資産合計	7,477,401	源泉税等預り金	159
基本財産合計	7,265,787	固定負債合計	5,848
有価証券	6,220,593	退職給付引当金	5,848
預貯金	95,530	正味財産合計	7,509,256
土地	652,150	基本財産	7,265,787
建物	297,512	その他の財産	243,469
その他の固定資産合計	211,614	事業拡大積立金	200,000
有価証券	200,000	その他	43,469
預貯金	5,848		
器具・備品	5,766		
資産合計	7,515,264	負債・正味財産合計	7,515,264

正味財産増減計算書

自平成19年4月1日 至平成20年3月31日 (単位:千円)

【増加原因の部】		【減少原因の部】	
科目	金額	科目	金額
基本財産運用収入	91,798	事業費	82,311
運用財産運用収入	2,180	管理費	22,450
負担金収入	6,370	常外費用	17,619
雑収入	2,767		
経常外収入	2,500		
合計	105,615	合計	122,380
当期正味財産減少額	16,765		
前期繰越正味財産額	7,526,021		
期末正味財産合計額	7,509,256		



癒しのヨーガ 2008.7.5

編集後記

会報32号をお届けするに当たり、新公益法人準備委員の一人として皆様にご関心を寄せていただきたいことがあります。巻頭でも申し上げましたが、新法により財団も大きく変革されようとしています。「不特定多数の利益に寄与する」という部分の問題については前述のとおりですが、不特定ではないものの代表例として同窓会が挙げられております。当財団は小山台高校を支援するために作られた存在であり、そのために同窓会のボランティア活動で支えられてきています。公益法人になるために定款上この財団の目的から小山台色を消したら、これまでのように皆様は一生懸命財団を支えて下さるでしょうか。来年はこの難問を解くための極めて難しい年となりそうです。 常勤理事 杉山 元